

☆☆矢野目小学校教育目標☆☆互いを大切に、笑顔で協働する子どもも☆☆自ら学び、深く考えて行動する子ども☆☆心と体を鍛え、命を大切にする子ども

令和6年度矢野目小学校 学校だより

みんなの広場 2

笑顔があふれ、明日もまた来たくなる学校

2024.10.10 発行 No.72 文責 目黒 満

秋の長雨が明けそうな今日の天気でしたが、気温はすっかり涼しいを通り越して肌寒くなりました。季節の変わり目、欠席者が連日やや多めでした。そんな折、近隣の小学校ではインフルエンザが10名近く発生したという情報が入りました、市内全体では10数名ということなので、一校に集中して拡大したようです。すぐ近くですので、本校も要注意です。
うがい・手洗いの励行と早寝早起き朝ごはん！

家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目に

令和7年度の入学予定児童健康診断を実施しました

昨日10月9日(水)12時半過ぎから、令和7年度入学予定児童を対象とした就学時健康診断を実施しました。

今年度、本校の各学年児童数は、1年53名、2年54名、3年53名、4年56名、5年73名、6年45名です。この数年間の新入児童数は50名以上いたのですが、昨日の健康診断を受けた児童は42名でした。本校学区内でも、市内全体の傾向同様に、少子化の波が押し寄せてきている感じがします。ただ、地区によっては、



一時的に増加している小学校もあるようです。お隣の平野小では、平野中の周辺に新しい住宅が多数できたこともあり、令和7年度の入学予定児童数が増加しているそうです。

本校では、13号線の西側はこれ以上住宅が増える場所は残り少ないようですので、13号線の東側の地区の動きがどうなっていくのかが、将来の児童数の推移に影響してくると思います。

昨日の就学時健康診断では、市川陽子先生(小児科・

内科)、板橋辰也先生(歯科)、橋本禎子先生(眼科)の3名の学校医の先生方に、新入予定児童一人一人について専門医の立場から、年齢に応じた発育状況かどうかや疾病の有無、治療状況等について診察していただきました。

また、4月からの集団生活や集団での学習・運動等を行うにあたって、先生からの簡単な指示や説明を理解して行動できるかどうかや、身の回りのことについて言葉で理解したり表現できたりしているか等について簡単な質問や検査を行いました。同時に、保護者の皆さんからは、身の回りのことや食事・排泄等の自立状況や心配されることなどを聞き取ったり、お子さんの様子についてお話をしたりして入学までの準備をお願いしました。

学校では例年のことですが、6年生の児童が新入予定児童のグループを誘導しながら、優しく丁寧にお世話をしていました。6年生は7年前はこんなに小さくて幼かったのに、小学校の6年間でこれだけしっかりと成長するというのを毎年のことですが、実感する場面がたくさんありました。

昨日、ご参加いただいた保護者の皆様に、子育ての際に大切にしてほしいことを中心にお話をさせていただき、資料をお配りしました。昨日の資料については、在校生の保護者の皆様にもご覧いただき、子どもの将来を見据えた子育てのポイントを理解・実践していただきたいと考えます。本号の2ページ目以降で配信しますので、ぜひ一読下さい。

教育実習生の遠藤先生です よろしくお祈いします

10月7日(月)~11月1日(金)までの4週間、お世話になります。

矢野目小の卒業生です。バスケのスポ少でも活動していました。

マンガを読むことが好きで、バスケやバドミントンが得意です。逆に、海や密閉された場所が嫌いで、サッカーはあまり得意ではありません。

矢野目小での思い出は6年生の時の鼓笛パレードで、学校名の看板を持って一番目立つことができましたと思ったことです。(その他にもたくさんあります)



将来は、福島県で小学校の先生になりたいと思っています。先生になろうと思った理由は、今までステキな先生に出会ったことがあまりなかったため、これからの子どもたちがそうならないように、少しでも印象に残る先生になりたいと思ったからです。

教育実習では、矢野目小の子どもたちにどんどん関わり、仲良くなって、子どもたちに「ずっといてほしい」と思ってもらえる先生になれるようがんばりたいです。

所属の4学年1組を中心に、各学年で実習を行います。教育実習での学びを重ね、たくさんの気づきを自分のものにして理想の教員をめざして目標達成できるよう精一杯応援・指導していきたいです。

「大人の都合で…、便利だから…、かわいそうだから…、良かれと思って…」ついついやっちゃう よくありがちな「わが子の成長の可能性を奪う子育て」を見直しましょう！



2024.Oct.

1 古いスマホのアラーム機能を使って子どもの目覚まし時計代わり

- 簡単・便利で楽 だけど…
- × 文字盤で1~12の数字を習慣的に見ることができない
- 学習基盤となる数量感覚が身に付くチャンスを奪う
- 算数の基礎となる学習内容や量の感覚が身に付きにくい
- …→ 数年後は勝手に動画やSNSを使い不規則な生活に



アナログ式目覚まし時計を枕元に置いて自己管理させましょう

2 ちょっとでも雨が降ったら、雪が降ったら、「はい、車で送迎！」

- 濡れない、早い、余計な心配が要らない だけど…
- × 天気や季節の変化・自然への肌感覚・体験の機会を奪う
- × やり遂げる力・レジリエンス※を身につける機会を奪う
- × 体力向上、肥満解消の機会が奪われる



少しの雨・雪なら、子どもたちに楽しい体験をさせましょう

3 わが子を親の所有物だと思い、自分の価値観で思い通りに

- 親の想定内での行動なら大丈夫という安心・安堵
- 子どもが親の思い通りになっている支配欲の充実 だけど…
- × 自分でものごとを決める決断力、行動力、持続力、責任感が育たない(他者や物に責任転嫁する子どもに育つ)
- × 成長しても親を超えることができない子になってしまう
- × 子どもがやりたいこと、進みたい道が見つかって、親の価値観で禁止・抑制・拘束するため「前向きさ」がなくなる



子どもは独立した人格です。自己決定させましょう。愛情は愛情！

※ レジリエンス:精神的な強さの指標の一つ、「回復力」「しなやかさ」を意味することばです

4 子どもが失敗しないよう親が先回りし、失敗させない守りの子育て

- わが子を失敗から守った親の一時的な安心 だけど…
- × 失敗することを異様に恐れ、新しいことに「後ろ向き」になる
- × チャレンジする意欲・気持ちがなくなる
- × 失敗から学び、再チャレンジする成長のチャンスがなくなる



失敗させてみて、失敗について一緒に寄り添って考えましょう

5 夕ご飯の支度の際、静かにさせるため、スマホ・ゲームで子守り

- 静かに過ごしてくれるので手がかからず家事が進む だけど…
- × 調理や栄養、食材等への関心を持つ機会を奪う
- × 学校のことなど、貴重な会話の機会を失う
- × わが子の視力や脳への悪影響をあえて与えている



食器配膳や簡単な手伝い等、お話ししながら一緒に準備しましょう

できたら褒める・感謝を伝える、嫌いな食材に触らせてみる

6 「ながら子育て」で画面等を見ながら、生返事で子どもの話を聞く

- 時短している安心感、自分の興味・関心優先の満足感 だけど…
- × 特に、乳幼児期に親・大人とのアイ・コンタクトがないと、大人への絶対的な信頼感や自己肯定感※が育たず、その後の成長・発達、人間関係構築力に影響する



「ながら」の手を止め、子どもと向き合い、目と耳、心で聴きましょう

途中で子どもの話を遮断・否定せず、最後まで聞いてから、「もし自分なら〇〇するかな？」と提案し、子どもに自己決定させ、一緒に見守る子育てスタイルへ修正しましょう

※ 自己肯定感:ありのままの自分をかけがえのない存在として好意的に受け止めることができる感覚 自信や前向きさ、主体性や積極性に大きく影響する (※印はどちらも、幼少期からの親の関わりがとても大切と言われています)

わが子の将来を見据え、自己肯定感やレジリエンスを育て、生きる力を身につけさせる子育てを目指しましょう！

自己肯定感・レジリエンスを高める子育て・関わり方

◎ 自己肯定感とは ◎

ありのままの自分自身のことが好きで、自分のことを肯定的に思える感覚のこと

◎ 自己肯定感が高いと？

- ・ ポジティブに人や事に関わることができる
 - ・ 新しいことに積極的に挑戦できる
 - ・ 失敗しても試行錯誤して解決を図る
 - ・ 自分と同じように、周囲の人も尊重できる
- よりよい関係性がつくりやすい
→ コミュニケーションがうまくいく



◎ 大人になってからの影響も大きい

- ・ 将来、困難や問題が訪れた時の「乗り越える力の基盤」となる
- ・ 基盤ができていないと、問題の解決法を自分で考え試行錯誤しながら解決できる



◎ どんな関わりをすればいいの？

- ① 子どもが話しかけてきたら、口をはさみたくても我慢し、最後までよく聞く
 - ・ 周囲の人・親に認められている・受け入れられているという感覚を子どもが持てる
- ② 子ども自身に選択・決定を預ける
 - ・ 親が決めるのではなく、子どもの選択の機会を意図的に増やし、選んだ結果を肯定的に受け入れる
 - ・ 困った時・悩んだ時も同じです
- ③ 家庭内で何かを決める時には、子どもにも意見を求める



- ・ 「自分は親に頼りにされている」「自分も家族の大事な一員」という喜びや承認欲求が満たされる

- ④ 「ほめる」際には過程・取組をほめる
 - ・ 過程・途中のがんばりの姿を認める
- ※ 結果ばかり取上げると、結果がダメだったときに、「自分はダメ」という自己否定につながりやすい

⑤ 他の子・兄弟と比較しない

- ・ 親が他と比較し「もっとガンバレ」と言われ続けると、「自分はダメなんだ」と思ってしまう



◎ レジリエンスとは ◎

「折れない心」、逆境から立ち上がる「回復力」

◎ レジリエンスの7要素

- ① 感情のコントロール力
- ② ネガティブな気持ちを切り替える力
- ③ 変化に対応・順応できる柔軟性
- ④ 自己肯定感
- ⑤ 人に助けを求めることができる力
- ⑥ 楽観的にものごとを捉える見方
- ⑦ 思考の柔軟性・多面的なものの見方



◎ どんな関わりをすればいいの？

- ・ 専門家は、「もともとレジリエンスの低い子どもはいない」と言います。親との関係や周囲の人との関わりによって一人一人の子どものレジリエンスの高低は変化するそうです。
- ・ 子どもは、外の世界でイヤなことがあってレジリエンスが一時的に下がっても、安全基地である親の元で充電し、気持ちとレジリエンスを回復する事ができます。そのためには

- ① マイナスの気持ちに寄り添う
「悲しかったね」「辛かったね」
- ② 気持ちの切替え方を提案する
「仕方ないね」「そんなこともあるよ」
「早く気づいてよかったね」
「次はどうすればいいだろうね」
- ③ 先回りせず、子どもの Trial & Error を見守る
- ④ 甘えたい気持ちを受け止め、気持ちを伝える
「大好きだよ」「よく頑張ってるね」と抱きしめる
- ⑤ チャレンジを認め、他と比べない価値観を教える
わが子の「長所」「よさ」を伝え続ける



親として一番簡単な方法は、わが子が生まれた日のことを常々思い出すことです。生まれてきてくれて、天使のような表情で呼吸をし、今、目の前に存在している、そのありのままを見て「わが子丸ごとの存在が大切」「生まれてきてくれてうれしい・ありがとう」と思いましたよね。

わが子に対して、わが子がいくつになっても「あなたのそのままの存在が大切」「いてくれるだけでうれしい」という思いをもち続け、そのメッセージを出し惜しみせず、どんどん言葉と表情・行動で伝えていくことが、わが子の自己肯定感やレジリエンスを高める一番の方法です。

入学準備 7つの「これだけは！」

～「自分のことは自分でする・自分でできる」基本的生活習慣を～

1 「早寝・早起き・朝ご飯」

(1) 「夜9時就寝～朝6時起床」を基本に

※ 就寝前、毎晩の「絵本の読み聞かせ」が読書好きを育てます

(2) 十分な睡眠と朝食は、1日の身体と脳のエネルギー

～「家族そろって笑顔でご飯」が子どもの元気の源です～



2 おしっこ・うんちを一人でする

～学校にはシャワー便座・自動洗浄はありません～

※ 学校は洋式トイレですが、遠足や宿泊学習の際、まれに和式トイレだったりもします。和式も経験させてもらえるとありがたいです



おはようございます!! 3 声を出してあいさつや返事をする

(1) 「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「おやすみなさい」

(2) 「はい」「いいえ」「ありがとう」「ごめんなさい」

(3) 自分の名前や保護者の名前が言える(住所や電話番号も言えれば最高!)



4 自宅から学校まで、歩いて登下校する

(1) 入学までに何度か、通学路を一緒に歩きましょう

(2) 危険箇所と具体的対応と一緒に確認しましょう

※ 交差点・信号・踏切・狭い道・危険な道の歩き方等

(3) 晴れの日、雨の日、曇りの日、雪の日など、

ランドセルと傘の二刀流や長靴歩行もチェック!



5 食事を自分で、一定時間座って食べる

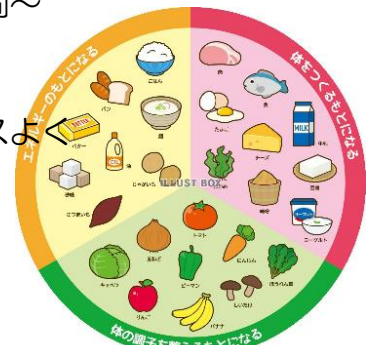
～給食は、みんなと一緒に20分間～

(1) 箸を使って自分で食べる

(2) 分けられた自分の分を座って食べる

※ 好き嫌いなくいろんなものをバランスよく

(3) 自分の席で「ごちそうさま」



6 着替えを自分でする

(1) 洋服を脱ぐ、着る、着替える

(2) 脱いだ洋服を所定の場所に片付ける



7 目を見て、言葉でコミュニケーションする

(1) 日頃から、家族同士がお互いの顔・目を見てお話ししましょう

※ スマホ片手に、画面を見ながら・・・は絶対ダメ!

(2) 「おいしい」「イヤ」「たのしい」等を言葉で伝え合いましょう

※ 暴力や涙、怒りではなく、穏やかに言葉と表情で伝える

※ 親が先回りしない、子ども自身の言葉を待ち目を見てじっくり聞く

